

住民が主体となった 過疎・中山間地域 活性化の取り組み

行政政策学類 教授 法学修士

岩崎 由美子

IWASAKI Yumiko

【専門分野】 過疎・中山間地域の活性化、地域づくりについての調査研究

地域の元気
づくりを応援!



【プロフィール】 早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。過疎・中山間地域の活性化、住民参加による地域づくり、農村女性による起業活動について調査研究を行う。

農山村地域は都市部に先駆けて人口減少と高齢化が進行し、地域資源の荒廃や集落機能の弱体化が問題となっていますが、その一方で、住民が主体となって様々なネットワークを生かしながら地域再生を模索する試みも各地に生まれています。私はこれまで、農林業活性化に向けた取り組みや地域資源管理主体の形成といった地域課題と、農家女性や高齢者の自立とを関連させながら調査研究を進めてきており、なかでも、農村女性が主体となった小さな「六次化」の取り組みに注目してきました。

近年は、地域と大学とが協働して農山村集落の再生に取り組む「域学連携」に力を入れています。実際、若い学生たちが地域に入ることでマンネリ化して

いた集落行事が活性化し、子育て世代も楽しみながら地域づくりに関わるようになった地区や、集落の「お宝」を活かした特産品開発に住民主導で取り組み始めた地区も出てきています。

集落活性化の取り組みは一気には進みません。住民や自治体職員等地域の皆さんとの信頼関係を大切にしながら、現場の生の課題に向き合い検討を重ね、地域再生のための計画づくりと実行に向けた内発的な展開に継続的に関わっていきたいと考えています。



研究概要

住民が主体となった過疎・中山間地域の活性化の取り組みを支援しています。学生とともに集落に赴き、地域課題解決に向けた実態調査や地域資源発掘活動、伝統行事・農作業体験、民泊体験、ワークショップのファシリテーター等を通じて、地域マップの作成や集落活性化に向けたビジョンづくり、実践活動などに取り組んでいます。また、女性の力を生かした農山村地域づくりの支援として、道の駅や直売所活動に果たす女性の役割評価や農村女性起業



国見町での集落ワークショップ

家の育成、農業委員会の活性化と女性農業委員の活動支援、JA女性部の活性化の取り組みなどにも関わっています。

こんなこと
できます!

過疎・中山間地域の元気づくりを応援します

想定するパートナー

自治体、集落、農業委員会、JA、NPOなど

具体的な連携、事業化のイメージ

過疎・中山間地域のビジョン策定、活性化活動の支援

これまでの取組事例

東日本大震災前は阿武隈地域の直売所や加工グループで構成する「あぶくまロマンチック街道構想推進協議会」で直売所活性化の支援に携わったほか、飯館村の第五次総合計画「までいライプいいたて」策定に地域産業部長として関わり、地域資源を生かした集落再生の取り組みや女性を中心とした小さな仕事づくりなどの支援を進めてきました。震災後は、被災女性農業者による復興活動「カーちゃんのカプロジェクト」や飯館村復興計画策定等にも委員として関わっています。また、域学連携として、福島県国見町や湯川村での集落活性化ビジョンの作成と実践活動に学生とともに取り組んでいます。

関連情報

『食と農でつなぐ 福島から』（共著・2015年）、『小さな自治体の大きな挑戦』（共著・2012年）、『女性の参画と農業・農村の活性化』（単著・2005年）など

私たちの研究室自慢!

フィールドワークの成果を少しでも地元に還元できるよう、集落の子どもたちとともにマルシェや、集落PRパンフレットの作成、SNSでの情報発信等を通じて、地域の魅力を広く発信していきたいと思ひます。

